

平成28年度 第2回五島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年11月28日(月) 午後1時30分～3時
- 2 場 所 五島市役所3階第2委員会室
- 3 出席者
【構成員】 野口市長、清水教育長、吉田教育委員、林田教育委員、坂本教育委員、佐藤教育委員
【事務局】 市長公室長、教育委員会総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、教育委員会総務係長
- 4 傍聴者 なし
- 5 内 容

(1) 開会

【事務局】

皆様、こんにちは。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、平成28年度第2回五島市総合教育会議を開催させていただきます。

28年度の第1回会議は、7月27日に開催しておりますが、皆様ご承知のとおり、10月20日より2名の教育委員が交代しておりますので、今回が新しい教育委員の体制での最初の総合教育会議ということになります。

本日の会議は、次第に沿って進めさせていただきますが、次第にあります協議題までは、事務局の方で進行をしたいと思います。

(2) 市長挨拶

【野口市長】

皆様、こんにちは。今年度、第2回目の総合教育会議を開催しましたところご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、今回、坂本委員及び佐藤委員へはご多用の中、教育委員への就任をお願いしましたところ、ご快諾をいただきまして誠にありがとうございました。今後よろしく願いいたします。

段々と子ども達が減る中で、五島市の財産とも言える子ども達をしっかりと育てていきたいというような気持ちで、これからも進んでまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

この総合教育会議でございますが、昨年の4月から法律が改正されまして、教育委員会制度が大きく見直しがされました。五島市では法律の施行時期にあわせまして昨年の4月から総合教育会議を設置させていただいております。この会議では大きく3つ役割がございます、一つが五島市の教育大綱を策定するという事、二つ目が教育行政に関する重要な事項をご審議いただくということ、三つ目が例えば学校で重大な事件・事故が発生した場合にどう対応するかというような緊急的な事項となっております、大きくこの3つが役割となっております。

教育大綱については昨年、策定させていただきましたので、当面は五島市のその時々々の教育関係の重要課題について、我々あるいは教育委員会の意見を披露しながら教育委員の皆様方のご意見を頂戴したいと思っております。本日の協議題としては、前回の協議題の進捗状況等も入っており、ご報告もさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(3) 新教育委員挨拶

【坂本委員】

皆様、こんにちは。坂本泰蔵でございます。

学校を退職して6年目になりますが、これまで地元である久賀島の人口減、久賀島の活性化ということだけに目を向けて生活をしておりましたが、これからは五島市全体の子供達に目を向けていかなければならないという責任を痛切に感じております。不勉強な面もあろうかと思いますが、一生懸命勉強してまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤委員】

佐藤清美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

これからは自分の子供のことだけではなく、五島市の子供達のためにお役に立てるように頑張っていきたいと思っております。

(4) 事務局説明

【事務局】

事務局より、本日の会議の進め方等について説明。

それでは、ここからの進行は市長にお願いしたいと思います。

(5) 協議題 ①五島南高等学校及び奈留高等学校の機能充実と魅力化について

【野口市長】

それでは、ただいま事務局より進め方等について説明がありましたが、そのような形で進めさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

それではまず、五島南高等学校及び奈留高等学校の機能充実と魅力化について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

県が発表した「長崎県立高等学校教育改革第8次実施計画」、県作成の住民説明会時資料「五島南高校における離島留学制度の拡充について」、「奈留高校における離島留学制度の拡充について」を資料として説明。

【野口市長】

ただいま事務局から報告がありましたとおり、県が五島南高校と奈留高校で離島留学の拡充ということで取り組んでいくこととなっております。

奈留高校では現在も奈留島の中で小中高一貫教育となっておりますが、現在奈留高校では33名の生徒がいるようです。少子高齢化の中で、小中学校では来年からしま留学を導入して何とか学校を維持していきたい、さらにその先には随時高校にあがっていくのですが、奈留高校がなくなると奈留で子どもを育てる家庭が、福江島に出てきたり、あるいは長崎に出ていったりするということで、かなり経済的な負担が大きくなりますので、何とか奈留高校については存続を図りたいという思いであります。

また、五島南高校では、現在91名の生徒がいるようですが、少子高齢化の中で廃校となる対象にもあがってくるのが想定されます。五島南高校は、五島高校や海陽高校を補完するという意味でも大切な高校であります。ここも何とか存続を図りたいと思っております。

基本的には、県立高校は県の所管、小中学校の義務教育は市の所管となりますが、所管が違うからということで高校に手を付けないということになると、高校がなくなるということにもなりかねませんので、市も財政的な支援も含めて積極的に関与することで、この2校を何とか存続させたいということで、県へ働きかけてこのような制度をご検討いただいた次第であります。市としては、高校の魅力化事業を軌道に乗せて2校を存続させたいということでやっていきたいと思っております。それぞれ教育委員のご意見等をお伺いしたいと思います。まず、奈留が地元でもあります吉田委員から現状等も含めてご意見をいただきたいと思っております。

【吉田委員】

小中高一貫教育を実践している学校で英語に特化して良い成績を納めているという中で、高校の存続がどうなるのかということで非常に危機感があり、住民が奈留高校の未来を考える会という組織を立ち上げて活動をしておりました。そういった中で、県から奈留高校と五島南高校については、いち早く取り組んでいくと表明をしていただきまして大変うれしく思っております。

奈留の現状を言いますと、奈留中学校の生徒のうち来年度奈留高校を希望している生徒は6名のみと聞いております。この人数を聞くとこのままで良いのか、奈留高校はなくなってしまうのではないかと心配していたところに県が奈留高校を存続させていこうという動きがありましたので非常に助かっています。定員が40名ということで、奈留中学校から6名行くとすると34名を受け入れることになるわけですが、県としては現実的には10名程度は何とかしたいという意向みたいですので、10名入学していただければ嬉しい限りですし、英語に特化して大学進学

を目指す子ども達を受け入れるということですので、五島市のしま留学とリンクしますけれども、できれば奈留中学校に2年生か3年生にしま留学で来ていただいて、そのまま奈留高校に入学してもらおうという流れができれば良いことだと思います。

課題は、やはり留学生の確保と下宿先の確保になると思います。来年度から始まる奈留でのしま留学についても、しま親の確保に大変苦慮しているところでもあります。今後、高校生の下宿先も探すとなると大変なことだと思っています。一番良い方法としては、寄宿舍か寮の形だとは思いますが、新築するという事は難しいと思います。五島市には空き家バンク制度がありますので、この空き家を改修して活用できないか、そういったことも含めて市として取り組んでいただきたいと思っています。

【野口市長】

坂本委員においては、現在久賀島のしま留学制度にもかかわっていただきご苦労されていると思いますが、その辺りも含めましてご意見をいただければと思います。

【坂本委員】

以前、富江高校が廃校となった際に、富江中学校の校長をしていたのですが、早くにこういった制度があれば富江高校も何とかなったのではないかという思いがあります。

しま留学については、しま親である受入先の問題が課題であります。私は現在、しま留学のコーディネーターをやっており、先日北海道の鹿追町へ視察に行っていました。そこは30年間山村留学をやっているところで里親の形でスタートしたということでしたが、徐々に高齢化で対応できないということになって、農業青年研修所という木造の建物を改修し寄宿舍として活用したそうです。また、そこでは親子移住留学ということを進めていました。親子で移住するためには住む所と仕事が必要になるわけですが、町営住宅の改修と仕事の斡旋に力を入れて受け入れているということでした。小中学校で30名程度受け入れているのですが、寄宿舍を利用しているのが9名で、あとの20名くらいは移住してきているということのようです。また、そこでは、留学についてのPRに力を入れており、関西、関東方面まで行ってPRをしているようです。そういった中で、JICA（国際協力機構）でご主人が海外へ行っており、妻と子どもが山村留学で住んでもらうというように、そのような人をターゲットにした結果、かなりの人が移住して住んでもらっているということでした。仕事については、牧場や近くのホテルが雇ってくれるという形になっているそうです。このように、留学制度では子どもの数は増えるけれど大人の数が増えないということになりますので、親子留学という制度は良い形だと思いながら視察から帰ってまいりました。

【林田委員】

ぜひ進めていただきたい事業だと思います。親が子どもと一緒に五島へ来ることも考えられませんが、そうした時の仕事先の確保も考えていかなければならないかと思っています。

【佐藤委員】

私も学生の頃は英語が好きだったので、奈留高校が英語に特化して留学を進めるということは

非常に惹かれますし入学してみたいと思います。英語教育について押していくのであれば、強くPRする必要があると思います、奈留高校に行ったら日常会話くらいは話せるようになるとか、入学を後押しするような特色が必要になると思います。

【野口市長】

奈留中学校の3年生の英語の力は日常会話も含めてどれくらいありますか。

【事務局】

昨年、授業を見学した際は、家庭科で調理をするという題材でしたが、その中で話している言葉を全て英語で話させるというような授業でした。子ども達が無気なくフライパンを持ってきてというようなことや、食べておいしいというようなことも全て英語で話しているような状況でした。それを見た時には正直びっくりしました。この子達にとっては英語というのが特別勉強しているという感覚ではなくて、日常の中にあるものという感覚なのかなと感じました。英語の学力的には長崎県が実施している学力テストがあるのですが、県内でもトップクラスにある状況となっています。

【野口市長】

今の奈留中学校の3年生は、小学校1年生の時から英語を習っている子どもになります。去年から五島市では小学校1年生から英語を勉強するようになっていますが、今の奈留中学校の3年生が、その9年後の姿と想像していただければ良いかと思います。

【事務局】

先日、総務省の地方創生のアドバイザーの方と話をする機会があり、奈留小中学校の英語教育の話をしたのですが、国の制度として世界中から生徒が集まってくるような取組もあるようです。ハードルは高いようですが検討してみても面白い材料だとは思っています。

【野口市長】

後ほど詳細を聞いてみて、検討してみても良いかもしれません。

先ほどの北海道の寄宿舎整備の話がでしたが、役割分担や運営方法など実態を調べておいてもらえますか。五島市にも立派な空き家が存在しますので活用方法も検討できればと思います。

何といても留学生を受け入れていただく家庭の確保が大きな課題だと思います。小中学校のしま留学の現時点での受入状況はどうなっていますか。来年度の定員が久賀で5名、奈留で3名となっていますが、現在の状況を教えていただけませんか。

【事務局】

久賀では常時預かりが3世帯、一時預かりが1世帯です。常時預かりは3世帯となっていますが受入可能人数は、1名、2名、3名となっていますので6名が確保できている状況です。奈留では常時預かりが1世帯、一時預かりが1世帯となっています、常時預かりの1世帯は2名までは受け入れるということになっています。

【野口市長】

それでいきますと、奈留で1世帯足りない状況ですか。

【事務局】

受入先の確保には奈留支所にもかなり努力してもらっているところですが、奈留支所長の話では、受入先がどうしても1世帯足りないとなった時には、最終的な受け入れ先として1世帯確保はできているとのことですので来年度の3名はどうか受け入れができるものと考えています。

【野口市長】

受入先を探す中でのネックとなっていることはどのようなことがありますか。

【事務局】

どうしても学校不適合の子どもを預かることになるということが一番頭にあるようで、当初は私達もそうでしたが、実際に久賀で受け入れを開始してみると、全くではないですがほとんどそういったことはないようです。というのが子ども達自身がまず自分が変わろうと思って来ているのでそこまでの特別なものはないという印象を持っています。もう一つが、親の介護のことがあります。受け入れをやってみたいけれども、今自分の親の介護があるというようなケースも奈留の場合では多く見られます。

【坂本委員】

預かってもらう時に研修等を行って、しま親としての心構えということを築いていくという面も必要ではないかと感じております。また、高齢化も進んでおり久賀でもいっぱいいっぱいの状況です。私も現在預かっているしま親に何かあれば預かるという協力者になっているのですが、これ以上拡大していくことも無理があるかとも思っています。民泊の関係でこの家庭はというところを押さえているという状況もあります。そういった家庭からは民泊もしているのにしま親まではやれないという意見も聞きます。では、民泊をやめていくかということになると、修学旅行などの受け入れが出来なくなってそれも困ります。

ですから、久賀では教職員住宅が空いていますので、そこを寄宿舍として活用できれば、そこに携わる人の雇用も生まれて良いことだと思っています。将来的には寄宿舍が必要になる事態が訪れるだろうと予想しています。

【野口市長】

久賀の現状を言いますと、来年度申し込みがあっている6名の子どもを入れて12名の子どもということになります。この制度がなければ全児童生徒数が6名ということになりますので、効果は表れているのかと感じています。

【清水教育長】

久賀では、来年度は6年生も入って来るようですので学級も増えることになります。このこと

は先生の配置にも影響がありますので良かったと思っています。

教育委員のお話を聞いている中で、空き家を活用して来てもらうということは良いことだと思います。ただし、その場合には仕事を探さないといけないということになりますので、二次離島という特に高齢化が進んでいるところでは、介護士や看護師という職種が良いと考えます。しかし、職を探すということは一番難しい問題ではないかと思っています。

また、奈留での英語教育はもっと推し進めていかないといけないと思っています。英語は、英語だけの力ではなくて子ども達のコミュニケーション能力を高めるものとして、人と人の付き合いを上手にやっていくという意味からも非常に重要なものだと感じていますので、奈留での英語教育はこれからも続けなければいけないと思っています。

【野口市長】

先ほどから高校の離島留学制度については、県立高校ではあるのですが市も積極的にかかわっていきます。現場のことが一番わかっているのは市ですから積極的に関与して取り組んでいきたいと思っています。また、それぞれご意見等がございましたらお伝えいただければと思います。

(5) 協議題 ②その他報告

- ・全国学力、学習状況調査結果について
- ・第1回会議で協議、意見交換した議題の進捗状況について
(奨学金制度、しま留学制度、新図書館建設)

【野口市長】

それでは次にいきたいと思っています。その他報告ということで、今年度実施された全国学力・学習状況調査の結果について、五島市の状況を事務局より説明をお願いします。

【事務局】

全国学力・学習状況調査結果について、全国平均等との比較、各小中学校の学校別の状況、分析結果、学力向上対策等を説明。

【野口市長】

ただいま説明がありましたが、五島市の現状として、全国平均を下回っている学校が多いようです。学校の役割としては勉強だけではないとは思いますが、社会性だとか体力も鍛えていかなければならないとは思いますが、やはり基本は学力に目を向けなければならないと思います。その中で各学校の状況を見ると残念に思う所もあります。それぞれの学校の先生達は学校ごとの状況は知っているのですか。

【事務局】

自分の学校の状況は知っている状況です。中学校の校長にあっては自分の学校の校区内の小学校の状況は把握しています。また、自分の学校の状況については、校長の判断で公表することは

可能となっています。

【野口市長】

方法があれば厳しい現実ということも学校の先生方に知ってもらうことも必要かもしれませんね。

事務局からの説明を聞いて素直な感想でも良いかと思いますが、それぞれご意見をいただきたいと思いますがどうでしょうか。

【佐藤委員】

子どもの友達を見ていて、勉強ができる子どもはたくさん本を読んでいるように感じています。私の子どもが通っている三井楽小学校も読書には力を入れているようです。また、家庭学習にも力を入れているように感じています。私が子どもの時には宿題しかやっていたように思うのですが、今は宿題プラス自分がやりたい教科を家庭でもやるように小さい時からしているようです。

【坂本委員】

久賀小中学校では全国平均等を上回っているということを学校だより等でお知らせしているようです。各学校が学校だより等で保護者の方へお知らせしたかどうかの確認については、教育委員会としてもできるのではないかと思います。堂々と高い低いを保護者の方へお知らせして、その後保護者と学校との話し合い等を行っていくようなこともあって良いのではと思います。校長としても悪ければ保護者の方へ公表しにくいとは思いますが、公表するという姿勢があって良いのではないかと思います。

【林田委員】

それぞれの学校の先生が一生懸命ご指導されているとは思いますが、資料を見て率直に感じることは、ここまで子ども達に差があるのは何が原因なのか、例えば、福江地区の子ども達は塾に行っている子どもが多いと思います。周辺地区では塾がない所が多いと思います。しかし、周辺地区の小規模校の方が成績が高いように思います。塾に行っていない分、授業に集中しているとか良く質問して個別に先生に教えてもらっているとか何が原因なのかと思います。

【吉田委員】

英語の成績が良いから他の教科はどうでもいいということにはならないと思いますし、英語は褒められて他の教科は褒められないということは良くないことでしょうから、英語も頑張って他の教科も頑張っていくという姿勢が大切だと思います。管理職は自校の状況は分かっているわけですからもう少し真剣に取り組んでいただきたいと思います。

【清水教育長】

確かに子ども達の学力の二極化が進んでいるということは事実です。そう言いながらも結果は平均なのでそれが学校の力ということになります。二極化のマイナスの所は引き上げてやるとい

う努力は必要だと感じます。年に2回校長と面談をする機会がありますが、その際に成績は保護者へ公表していますかということを知りたいです。あとは校長の判断になりますが、もう少し強く取り組んでいく必要があると感じています。教育委員会としても、成績面については強く意識して取り組んでいるのですが、やはり校長や教頭や先生がいかにか真剣に捉えて子ども達に取り組んでいるかという所だと思いますので、そこが不十分ということであればもっと指導していく必要があると考えています。

【野口市長】

学校別の大規模校と小規模校との傾向とかどのような分析をされていますか。

【事務局】

例えば、学校規模が同じような学校で比べてみますとやはり学校で格差があるということになりますので、規模というよりも校長をはじめとするリーダーシップだと感じています。調査が始まった当初は反対する先生もいたのですが、現時点では学校訪問等を通してみるとそういう時代は過ぎて、学校や全学級の問題として取り組んでいる学校については成績が上がっているように感じています。調査を行う学年は、県では小学5年生と中学2年生、全国では小学6年生と中学3年生なのですが、その学年の問題であるというようなことが以前はありました。そういった考え方では成績が低い状況でしたが、現在は全学年の問題として捉えている学校が多くなってきています。わかりにくいところではあるのですが、成績が少しは改善されているという状況ではあります。ということで、どんな課題に対しても学校全体の課題として取り組ませるような体制を校長に作らせるということが教育委員会の仕事だと最近強く感じております。

【坂本委員】

以前、英語については五島市は成績が低いことが新聞報道等でも公表されたので、五島市で力を入れてやった結果、現在の良い成績に改善されたと思いますので、英語で上げたという気持ちをもって各学校で取り組んでいただくしかないかと思います。例えば、数学が悪いのであれば校長が先生に張り付いてでも授業に刺激を与えていくようなことが必要ではないかと思います。私の経験からすると、授業を真ん中から少し上の子どもを対象に進めると授業が進めやすいと感じます。下位の子どもに焦点を当てると上の子どもが時間を持て余すということで、そこらの指導法の研究も必要ではないかと考えます。

【佐藤委員】

毎年、学力テストがあれば子ども達もモチベーションが上がると思います。

【事務局】

全国や県の学力テストは学年が決まっていますが、各学校では標準学力検査があつて全学年で実施はしていませんが、全国や県の対象学年とは別の学年で実施している状況です。

【野口市長】

あまり成績のことばかり言うとテストだけ良い点を取るような子どもに育つことにもなりません。学校の本来の役割である知、徳、体のバランスのとれた教育を行っていただき、成績についても少しでも改善されるように学校の資質向上に努めていただきたいと思います。

それでは次にいきたいと思いますが、7月に開催した第1回会議で皆様と協議、意見交換しました奨学金制度、しま留学制度、新図書館建設の3つの議題につきまして、その後の進捗状況について、一括して事務局より説明をお願いします。

【事務局】

奨学金制度、しま留学制度、新図書館建設について資料をもとに進捗状況を説明。

【野口市長】

まず、奨学金制度についてですが、奨学金の返還を支援する制度については、会議でも資料のような形で進めるということであったと思います。給付型の奨学金については、事務局案よりも少し所得基準を厳しくするべきではないのかという意見があったと思います。国の方でも給付型奨学金については検討がされており、案としては生活保護世帯、児童養護施設の入所者を想定しているということで、検討していたものと比べて厳しめの基準がでているようです。方向性としてはこのような感じかとは思っていますが、案では月3万円という金額もでているようです。市としては、国の制度の金額に上乘せするような形で進めようとは思っていますが、今後国の動向がはっきりしてから皆様から再度ご意見をいただくことになろうかと思っています。留学に対する助成については、事務局では財源等の問題もあり取りやめの方向ということになっていますが、どうするかということも含めてご意見をいただければと思います。

しま留学制度については、先ほどの高校の魅力化でもお話ができましたので割愛させていただきます。

新図書館建設については、第1回会議ではできる限り早期に整備していただきたいというご意見がありましたが、来年の夏頃には最終の計画を策定して基本設計というように建設に向けて進めているところであります。

これらの3点につきまして皆様からのご意見等をいただければと思います。

【吉田委員】

新図書館についてですが、現在の図書館は旧ホテルを改修して今に至っていますが、旧ホテルが建設されてから54年程度が経過しています。現在の図書館は大変老朽化しているということと室内も狭く駐車場もないということですので、スケジュールを前倒ししてでも早期に基本計画を策定して整備していただきたいと思っています。

【林田委員】

奨学金のことですが、奨学金返還を支援する助成金については早期に実現させていただきたいと思っています。幼児教育の立場でお話をさせていただきますと、どうしても保育士の確保が難しくて頭が痛い状況なんです。このように五島市に帰って来て就職した場合に助成を行うということで、PRを十分行って五島市で就職してもらおうように、応募多数となるように多くの方に

周知していただきたいと思っています。

【野口市長】

これは来年度の4月から実施する予定で進めていますか。

【事務局】

来年の4月に五島に帰ってきたりして奨学金を返済している人から対象となるよう考えています。申請については、来年の4月～12月の間に奨学金を返済した実績を見てということになりますので1月頃という形を想定しています。

【野口市長】

厳密にいうと来年の3月まで予算が成立しないので、建前はあるのですが、できるだけ帰って来ていただきたいという思いがありますので、できるだけ早く外向けにPRできるようなことを議会との相談や新聞報道等も含めて検討していただきたいと思います。

【事務局】

9月議会の際に長崎新聞から取材を受けまして、五島市は来年度から実施予定ということで記事が掲載されています。

【坂本委員】

図書館についてですが、非常に助かっていると思うことは、ない本についても取り寄せていただいたり、移動図書館車で久賀まで行ってもらっているということで非常に行き届いていると感じています。ただ、現在の図書館は駐車場が狭いということや老朽化が激しいということですので早急に取り組んでいただきたいと思っています。

しま留学についてですが、久賀では来年度は5名定員で受け入れということで進んでいますけれども、現在申し込みが6名あります。1名定員オーバーということですが、できれば実績づくりにもなりますし、せっかく申し込みいただいたので1名枠を増やしていただくようご検討いただければと思っています。

また、奨学金については五島市に帰ってきたら返済免除というようなことは良いことだと思っています。

【野口市長】

実は、毎週実施している朝の戦略会議でこの話題がでておりまして、教育長からもぜひということでお話がありました。せっかく申し込みがあったのに断るということがないように進めていくことになるかと思っています。

【佐藤委員】

返済の助成金の制度については、何年間か五島で働かなければいけないような条件はないのですか。

【事務局】

五島市に住民票を置き、五島市で働いた実績に応じて助成しようと考えていますので、何年間という縛りはありません。

(6) その他

【野口市長】

それではせつかくの機会ということで、本日の協議題以外で皆様から何かございましたらご意見をいただきたいと思います。

【吉田委員】

新たな奨学金制度のことではありませんが、全国でも貸与型奨学金の返済については問題になっているようです。努力して返している人もいれば、返せるのに返さない人もいます。五島市の貸与型奨学金の滞納額も高額になってきているようです。ある自治体では弁護士を雇って弁護士の名前で通知を送ると返済しているというような事例もあるようです。滞納額が年々増えてきているということは問題だと思いますので、保証人にもお願いするなど回収の方法も含めてご検討いただき回収業務に励んでいただきたいと思います。

【野口市長】

27年度末実績で、滞納者約80人で滞納額1千9百万円程度という状況だと思いますが、お話があったとおり収入未済額の解消について徴収率をあげていただきたいというお願いでありますので、事務局も取り組みをお願いしたいと思います。

以上で本日の協議、意見交換は終了したいと思います。事務局においては、本日でた意見等を踏まえながら今後事業を進めていただきたいと思います。

(7) 次回開催について

【野口市長】

それでは、次回開催についてですが、ある程度時期を決めたいと思いますが事務局から何かありますか。

【事務局】

総合教育会議の開催については、定例的な会議を年に2回程度を予定しておりますので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議で28年度は終了したいと考えております。しかし、今後、市長や教育委員会から協議・意見交換したい内容がございましたら、事務局までご連絡いただければ、第3回目の会議の調整を行いたいと思います。また、緊急的に開催する必要が生じ

た場合については、事務局より皆様へご連絡したいと考えております。

(8) 閉会

【野口市長】

それでは、総合教育会議の開催は、年に2回程度を目安としているみたいですので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議をもって終了したいと思います。ただし、事務局からも説明がありましたとおり、今後、皆様から協議、意見交換をしたい内容がございましたら事務局までご連絡いただければ調整しご案内したいと思います。

以上をもちまして、今年度、第2回目の五島市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。